

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第286号	氏名	近藤 郁理
学位審査委員	主査	中山 浩次	
	副査	根本 孝幸	
	副査	原 宜興	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は、通法では分類の困難なビリダンスレンサ球菌の新たな分類・同定法の開発を目的としている。これにより唾液などの臨床サンプル中の菌種の迅速同定、菌血症などのリスク評価などの臨床応用が可能になるため、研究の目的は十分に妥当であると考えられる。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>解析の対象として、菌の膜タンパクである <i>rodA</i> (rod shape-determining protein gene) 遺伝子を用いている。遺伝系統学的解析を行い <i>rodA</i> を新たに用いることの正当性を示している。また、遺伝系統学的解析に用いられた NJ 法は、標準的な手法である。さらに <i>rodA</i> を微生物群集構造解析に用いられている変性剤濃度勾配ゲル電気泳動 (Denaturing Gradient Gel Electrophoresis: DGGE) 法に応用しているが、水平、垂直 DGGE 法を駆使して 9 菌種の分離ができる条件を決定している。これらの点から、研究手法も妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p><i>rodA</i> の菌種間での遺伝子多様性が 16S rRNA 遺伝子よりも 10 倍高いことは、<i>rodA</i> がビリダンスレンサ球菌の分類に適した遺伝子であることを示している。さらにこの <i>rodA</i> を用いた DGGE 法で、唾液サンプルのビリダンスレンサ球菌の菌種を同定でき、その結果は培養法と一致したことから、<i>rodA</i> を用いた DGGE 法は十分に臨床応用可能と思われる。今後、感度や特異性の一層の向上を目指した臨床応用に向けての研究の展開が望まれる。</p> <p>以上のように本論文はビリダンスレンサ球菌による感染症のリスク判定に応用可能な細菌の分類・同定研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			